

益の弟。寛永二十年前田利常の御射手として、知行百石・料五十石を受け、貞享二年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

モウリギダユウ 毛利儀太夫 初め權七。前田利家に仕へて二百二十石を領し、中頃浪人したが、歸參の後五百二十俵を受けた。子孫藩に世襲する。

モウリキユウザエモン 毛利久左衛門 慶長二年父六郎左衛門の遺知百五十石を受けて前田利常に隸し、加祿兩度にして四百石に至り、寛永二十年致仕、承應三年二月十七日歿した。

モウリタロベエ 毛利九郎兵衛 天正九年織田信長が諸將を加賀に封じた時、毛利九郎兵衛は三戸田久太郎と共に、能美郡二曲城に置かれた。この年三月、信長は京師に小馬揃を行ひ、越前・加賀・越中の諸大名多く京都に上つたが、加賀の一揆等その隙に乗じて蜂起し、二曲城を攻めて九郎兵衛以下を殺した。尾山の城主佐久間盛政報を得て直に救援し、途にして既に落城したことを聞いたが、尙走せて二曲に赴き、一揆を殲殺して堡壘を恢復したといふ。

モウリスケエモン 毛利助右衛門 横山長知に仕へ、初め祿百五十石。大坂再役に功あり、寛永八年二百石を加へて興力に進み、慶安元年又五十石を合はせ四百石となつた。萬治三年歿。その子又太夫正基の時に至つて藩臣となつた。

モウリハンエモン 毛利半右衛門 文祿二年三月豊臣秀吉が伏見川を浚渫した時、前田利家は工事を請取り、惣奉行を長連龍が勤めた。この時河水を堰切る爲、川除をつき出し

たが、水疾く底深くして難儀に及んだが、大工半右衛門は梓を立てることを申出で、俄かに五十間二筋の作事小屋を作つて鳥足を組ませ、この計畫が成功したので、連龍は半右衛門を召抱へ、百五十石を扶持した。後寛永九年藩が小立野に疏水しようとした時、又半右衛門を案めたが、既に死んで居なかつた。

モウリヒテユキ 毛利英之 通稱助右衛門。半平の子。寶永三年新知百五十石を受け、前田吉徳の御小將となり、享保九年百石を加へ、奥小將横目に任じ、十四年定番御番頭に進んだが、十六年十月十九日その妻と口論した爲、兄太郎兵衛の爲に殺された。享年四十三。太郎兵衛は二十餘年前江戸に出奔したが、後に英之に養はれてゐたものであり、十七年閏五月廿一日御預人横山圖書の家で切腹せしめられた。

モウリヒヨウゴ 毛利兵庫 元和元年前田利常に仕へて八百石を領した。子孫藩に世襲する。
モウリマサモト 毛利正基 通稱又太夫。助右衛門の子。横山忠次の興力として祿四百石を受け、寛文三年定檢地奉行、五年改作奉行に任ぜられたが、十一年前田綱紀は擡で、御馬廻に班せしめ、寶永三年八月七十四歳を以て歿。子孫藩に世襲する。

モウリロクゾエモン 毛利六郎左衛門 前田利家に仕へて百五十石を受けた。慶長二年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。
モクシヨウ 默笑 ↓ミテツモクシヨウ 未微笑。
モクニヨ 嚙如 ↓テウホウモクニヨ 冲峰嚙如。

モクフソニン 默諱祖忍 曹洞宗の尼。能登の人酒匂八郎頼親の女、滋野三郎信直の妻である。瑩山紹瑾の大乗寺に居た時、信直と共に之をその邸に請じて受戒し、酒井保の山莊を瑩山に附したから、正和二年瑩山はこゝに洞谷山永光寺を創めた。元應元年祖忍瑩山によつて剃髮し、元享元年衣法を附せられ、翌年瑩山勝蓮峰に圓通院を構へ、祖忍が母の頂禮した觀世音を安置し、祖忍をして之を守らしめた。寂する時年八十餘。

モクリヨウ 默了 河北郡二日市眞宗東派誓入寺十二代の住持。法名慶縁、勸成院と稱し、北山と號した。寛政四年宣明に學び、文化元年高倉學寮の擬察司に任じ、次いで寮司に進み、加賀法論にはお頼み方の首領として、文政八年紀問を受けた。弘化二年十月廿八日寂、齡七十九。誓入寺は後に倉谷氏を稱する。

モクローウ 木郎 珠洲郡木郎郷に在つた舊邑名。↓モクローウジ 木郎寺。
モクローウガハ 木郎川 ↓クノリガハシリ ガハ 九里川尻川。
モクローウゴウ 木郎郷 珠洲郡に屬し、藩政時代では、羽根・小浦・大澤・眞脇・小木・市・瀬・越坂・新保・長尾・白丸・四方山・立壁・九里川尻・布浦・松波・戀路・宮犬・清眞・秋吉・河谷・不動寺・行延・山中・時長・瀧泉寺・國重・上瀧・坊・駒渡・田代の三十ヶ村を含んで居た。文化十年の郡方書上に、木郎郷三十ヶ村は往昔若山庄木郎郷と唱へた由とある。果してそれが事實ならばもとは若山庄の中であつたのであらう。

モクローウサンノウジンジャ 木郎山王神社 珠洲郡に在つた。式内等舊社記に『木郎山王

神社。木郎郷木郎村鎮座。舊傳云。江州坂本山王勸請。別當所號『醫王山木郎寺。舊社也。』と記し、また貞享二年木郎寺の書上に據れば、當社は天正七年三月七日出火し、拜殿・講堂・寺家盡く焼亡して、僅かに本殿一字を残したとある。木郎村は後世の瀧泉寺村であらうが、今はその社殿を存せぬ。↓モクローウジ 木郎寺。

モクローウジ 木郎寺 貞享二年珠洲郡木郎山王神社に關する書上に、木郎寺を惣名として、瀧泉寺村瀧泉寺・時長村願成寺・布浦村藥師寺・上村光明院・不動寺村不動寺・宮犬村勸成院・秋吉村清水寺・松波村神宮寺が連署してゐる。これらは何れも醫王院と號するもので、木郎寺の衆徒であり、瀧泉寺が筆頭であるから、それが本坊であつたと見える。又木郎山王神社は承應書寫の式内等舊社記に木郎郷木郎村鎮座とあるものであるが故に、その所在をもとは木郎村というたが、後に本坊の寺號によつて今の如く瀧泉寺村に變じたことと思はれる。

モクローウダニ 木郎谷 珠洲郡松波附近から、木郎川に沿ふ川上諸部落をいふ。又この河岸に添うて宇出津に出る山道を木郎越といふ。

モサキビヨウブ 藻崎屏風 ↓スソビヨウブ 須曾屏風。
モチカタグミ 持方組 御持方組は御持母組足輕と御持筒組足輕との總稱であり、又大組足輕に對して之を中組足輕ともいうた。延寶八年十月廿九日御持母頭に小泉勤十郎重長・半田權佐長方、御持筒頭に加藤十左衛門重久が命ぜられ、役料各百五十石を賜はつた。